

1. 件名：「日本原燃(株)の設工認申請に係るヒアリング(再処理施設(2-71)、  
廃棄物管理施設(46))」

2. 日時：令和5年7月4日(火) 14時40分～16時20分

3. 場所：原子力規制庁 10階会議室(TV会議により実施)

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

(原子力規制部新基準適合性審査チーム)

長谷川安全規制管理官、古作企画調査官、岸野主任安全審査官、羽場崎  
主任安全審査官、上出安全審査官、武田安全審査官

日本原燃株式会社

決得 執行役員 再処理・MOX 設工認総括副責任者 他3名

九州電力株式会社

テクニカルソリューション統括本部 土木建築本部 副本部長

三菱重工業株式会社

原子力セグメント 安全高度化対策推進部 主幹プロジェクト統括

株式会社大林組 原子力本部 設計第一部 担当部長

東電設計株式会社 土木部耐震技術部 担当職

5. 要旨

(1) 日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)からの令和5年6月30  
日提出資料に基づき、以下の事項について確認を行った。

・岩盤部分の減衰定数の設定に係る今後の検討内容

(2) 日本原燃から、主に、以下のとおり対応する旨回答があった。

・減衰定数の設定に関する各手法について、他サイトでの適用実績を参照する際は、日本原燃の敷地への適用性について説明するとともに、手法のみならず採用した値についても差分の考察などを説明する。

・追加調査の計画の説明の際には、単純に調査内容を説明するのではなく、調査内容の設定の考え方を含めて説明する。

・地盤モデルの策定に関する資料については、補足説明資料として内容及び体裁の整理を行う。

## 6. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。

## 7. その他

なし

## 参考

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000120.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000120.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000121.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000121.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000122.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000122.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000123.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000123.html)
- ・ 日本原燃株式会社 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から特定廃棄物管理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000124.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000124.html)
- ・ 令和5年6月30日

「日本原燃(株)再処理施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

時間	自動文字起こし結果
00:00:01	規制庁の竹田です。それではただいまから、
00:00:07	ヒアリングは、令和4年の12月、前提があった公認申請になっていまして、6月30日に提出があった資料の方に事実確認を行う。
00:00:20	規制庁側の出席者を紹介いたします。
00:00:22	本庁側から部長岸野浜崎竹田。
00:00:27	Webから上出が出席しております。それでは日本原燃の方から、
00:00:33	はい。
00:00:36	ヒアリングでも、
00:00:38	達成目標と、説明は説明の方をお願いいたします。
00:00:43	はい。日本原燃の大庭でございます。本日のヒアリング出席者でございます。日本原燃江川でございますが、決得榎本、大庭山口氏、
00:00:53	とあと九州電力から明石さん。当然関野竜野さん、三菱重工より佐藤さん、大林組より和田さんの、以上八名が参加してございます。
00:01:03	江良田嶋につきましてはと、本日特に発言の予定はございませんので原燃側出席者は以上でございます。
00:01:10	衛藤。
00:01:11	藤。本日のヒアリングの技工とそれから達成目標でございますけれども、本日は岩盤部分の減衰定数の
00:01:22	に関する
00:01:23	必要なデータ整理及び検討の方、
00:01:26	三角。
00:01:27	つもりで、この資料を
00:01:31	内容についてご確認いただくということと、いうふうに、
00:01:35	でございます。
00:01:55	はい。日本原燃の大戸でございます。それでは資料につきまして簡単にご説明差し上げます。
00:02:02	この資料の目的は件数行政について、必要なケース整理及び検討方針を示すということで、2ポツのところでは6月20日の審査会合における説明内容と、今後説明事項といたしまして、
00:02:15	逆よろ困る一井の行き方に示される、三つの手法を並べた上で6月20日審査会合時点での説明内容をまとめてこれを踏まえまして今後、

00:02:27	説明する内容としてヒアリング等のご指摘事項等を踏まえて今後説明が必要になっている事項というのをまず議席ベースで並べたというのが目でございます。
00:02:39	次2ページ目でございますけれども、この岩盤部分の月行数の
00:02:45	を基本的な考え方としてまとめてございまして、衛藤大園 904601-1987 に示される3手法に従って、評価するということと、
00:02:56	それから太細等の評価書をもうこれも採取しながら必要なものは実施していくと、いうことでこれを手段としての方針というふうに挙げてございます。
00:03:08	この手段を、を用いて評価を行っていく上では、留意事項として1から3を挙げてございまして、①敷地における地下構造の特徴というのをこれを素直に反映すると。
00:03:21	いうことで②につきましては既その Ss が増大したということをちゃんと念頭に置いた検討すると。
00:03:28	それから3番は最新のちゃんとられてるデータを使う。
00:03:32	ドーンというのを、基本的な方針としてここそれぞれ内容を書き下しておりまして、ここの①②③というのはちょっと後ですなやる内容をまとめておりますときに、そのそれぞれの項目でこの123に、
00:03:49	どのように対応して、データを取得する、していくといったような整理する
00:03:56	合わせて、
00:03:58	次に3ページ目4ポツでございますけれども、ここでは他サイトにおける下水道数の評価に係る
00:04:06	そして、玄海さんの手法をまとめさせていただくとともに、何がサイトとして東海第2大間の
00:04:16	実施されている内容というのを
00:04:18	ここで
00:04:22	次の4ページ、5ポツ今後の検討内容でございますけれども、これが本日のメインの
00:04:30	どうかと思っております、ページ目のA4であります。A3の、さっき横長資料をご覧ください。

00:04:40	この資料はですね、今後、先ほどですね他社さんの実績ですとか、それから逆での手法を、をもとに、今後やっていくべき内容というのをまとめたものでございます。
00:04:54	で、その左側に書いてございます 202460198 に基づく表としての 3 手法での追加でやるべきこと、それから、それにちょっと枠から入らないものというのでその他ということで整理させていただいており、
00:05:09	上からそれですね、それぞれの表につきまして、実際にはこれご覧いただいた通りで、3 ポツに示したい類ごとの対応というのが、先ほど①②③というふうに申しあげましたけれども、
00:05:22	それに対応して、この検討がですね、今、どのような憤りあるかと、いうことを書いてございまして、で、その次にこれまでの日本原燃での実施状況を、
00:05:37	まとめた上で今後の検討内容と、いうふうな真面目形にしております。
00:05:42	上から申し上げますと 3 軸圧縮試験による方法、これにつきましては、これまで事業許可で地盤モデルに考慮する買収というのを守らずに評価してるということでございますけれども今後の検討
00:05:55	内容といたしまして、
00:05:57	このですね、
00:05:59	事業区間でのデータを再整理再掲して考察を加えると。
00:06:04	いう形で、評価手法の弱に示される知見との整合性の観点ですとかひずみ依存性、位相特性を設定する上でのデータ情報性についての考察を加えていくと。
00:06:14	板井のところを考えてございます。
00:06:17	次に諏訪件数による方法でございますけれども、これにつきましてはこれまで至近 3 地点についての実施結果というのをお示してきたところで、
00:06:27	ございます。
00:06:28	で、これにつきましてはですね、このですね、減衰要素の妥当性を補完補強する位置付けでですね、測定結果を活用して参りたいと。
00:06:39	ということで今はですねこの中王子東三点のみのこのデータでありますことからさらなる確度向上のためにデータ拡充を行った。

00:06:49	ということでこれボーリング調査位置及びそれについては、検討してるところでございますけどもこれ追加してやって参りたいというところでございます。
00:06:59	で、その次に地震観測記録による方法ということで日野関野君の分析について、ちょっと多面的に行うということで、ここまとめてございまして、
00:07:10	上三つが観測記録のDたに基づく検討、それから下の二つがその三つの検討を、を用いて、
00:07:23	ですよ、するわけですけどもその検討した減数減衰がですね、
00:07:30	その伝達関数による確認でフィティングはどうであるかということを確認を行うということとそれから応答スペクトルの比較によりまして、このですね、規模について確認するというをそういう作りで、
00:07:44	書いてございます。
00:07:45	上三つでございますけれどもまず、伝達関数を周波数依存性による検討ということでこれは我々事業許可におけるはぎとり基盤で実施している。
00:07:55	ものではございますけれども、この事業区間におけますこの検討に用いてます地震観測記録が、現時点において
00:08:05	ここですね地震観測記録の移設後の名前が含まれていないと、いうことがございますので最新の記録を用いた評価をですね、これ追加で実施する必要があると。
00:08:16	両方に判断してござい
00:08:18	で、次のバイリニア伝達関数に乗る検討でございますけども、こちらにつきましては当社解放基盤表面から基礎建屋基礎、
00:08:28	底面部分については、右ということで深部地盤モデルでの適用実績があるということでございます。
00:08:35	ですので金です。
00:08:38	この多角的な検討を行う観点で、今回ですね、このような
00:08:45	その浅いところの検討についても、実施して参るということでございます。
00:08:51	次に自身は菅兵庫による検討でございますけどもこれは玄海さんでなさっているやり方でございますけれども、これ当社実施Cの実績ございませんのでこれ

00:09:01	新たに実施させていただきたいというふうに考えているところでございます。
00:09:07	で、それぞれにつきまして、評価されました月につきまして、連続観測確認を行うとともに音スペクトルによる確認を行って参るという形で考えてございます。
00:09:18	その他のところでございますけれども速度層断面による検討、それから岩石コアを用いた減衰測定による確認と、
00:09:25	ということで、これはですね
00:09:30	前回やられている手法でございますけれども、地震観測記録替えられていない深部における減衰定数を設定する上での地震観測記録がえられてる先方との
00:09:43	幾何構造相対関係の確認を目的として九州さんでは実施されていると。
00:09:50	いうところでございまして当社は地震観測記録を有していると、いうことはありましてゲンキーにおける試験としても、
00:09:58	伊佐検層のデータを有しているということではございますけれども、このようなですね評価またはその教唆結果の角度を交流させるということは、
00:10:10	これにつきましても岩石が関川用いた減衰測定による確認ですね、これは追加で実施して参りたいというところでございます。
00:10:21	最後、6 ページ目、二つ、今後の進め方でございます。
00:10:27	これらのうちですね3軸圧縮試験による方法及び金観測記録による主方法についての追加検査につきましては、既往データをを用いた深掘り検討ということですので、すでに着手しているところでございまして、
00:10:39	7月エンドをめどに、評価結果を、を含めた説明として提出いたしまして、審査会合でこれご審議いただくと、いったようなところを考えてございましてこの結果に基づい
00:10:52	て、岩盤部分の原石を数を基本モデルに設定でできるものをご提示するというのを考えてございます。
00:10:59	江沢検層による方法につきましては、追加のボーリング調査に関する費用を今、詰めているところでございまして、これ実施方針については7月中にはご説明差し上げたいと。



00:11:11	今の方に考えてございましてここまた技術確認いただくのかなというふうに考えているところでございます。資料のご説明は以上でございます。
00:11:26	は、この資料を見まして、規制庁側から確認をお願いし、
00:11:48	ふうん。
00:11:54	10%。
00:11:58	あ、はい。日本原燃のはぜひ申し訳ありませんちょっと総合的にちょっと書いて、
00:12:05	ましては前回の
00:12:10	時に出ていた、でも
00:12:12	データを
00:12:17	というところになって、
00:12:19	Huber については、
00:12:23	その 20、
00:12:26	ターゲット。
00:12:27	ようなレンジになっているという意味でそういう言葉を使っていたんですが、その中で、施設の固有振動数に近い側といいますと、まさしくその
00:12:35	20 年以上の中での一番研修、すなわち 20Hz ぐらいのところになりますので、その辺では、大体 4%とか 6%、そういったものが獲られてますよとそういう意味でちょっと書かせていただいております。ちょっと記載の方はすいません、正確に。
00:12:49	はい。
00:12:52	ターゲットレンジ。
00:12:53	それぞれ
00:12:55	観測して、
00:12:57	獲られている主な周波数領域という
00:13:00	観測というか、伊勢は検層ですのでその家臣の浪江の性格もあると思うんですがそれとあとそのセンサーにタッチされたのにつきまして、いわゆる最大振幅したり、
00:13:11	というような形で、
00:13:13	いずれ Officer 検層

00:13:14	するわけなんですけどその際の、取られている、もしくは過信したときの周波数体が、その技術の高いところだとそういうような、
00:13:32	の三瓶 G、
00:13:38	整理をされてる意味合いという。
00:13:44	見だしは実績の整理、
00:13:46	評価医との審査実績、
00:13:50	で、江藤文中には設定実績の整理、
00:13:54	ただ、表で整理されているのは、手法だけが、
00:13:58	うん。
00:14:00	まず、
00:14:01	何で手法だけなのかなと、伴斉木を中心にとりながら、頭に本当は何歳
00:14:14	先ほどもちょっとありましたけども、限界ものすごく FLACS ない
00:14:18	わ。
00:14:21	なっちゃってるけど参考にしました。
00:14:24	参考にするのでしょうか。
00:14:26	うん。
00:14:27	実際にそれぞれの設定値ってどうなったところは全然なくて、
00:14:33	ありますけど、
00:14:34	これはどのように整理して、
00:14:38	はい。
00:14:42	まして、例えば
00:14:43	一つ木野さんおっしゃったところで、各サイトでどういう数字に設定されたか。
00:14:48	ての結果なのかっていうところは、おっしゃる通りで最終的に
00:14:53	につきましてはすみません資料の趣旨として、どういう検討を我々するかというところで、今回手法のみをやったところなんですけど、今ほど申し上げました、各社の結果とかっていうところにつきましては最終的には我々として設置
00:15:05	した減衰定数が、各社の Vs っていうところがあってそれに対応する件数というのがあります、それとの類似性とか多様性とか、そういう観点での考察を行うことには、
00:15:14	ますのでその際にはやはり引っ張ってくる必要があるかと。
00:15:17	ちょっとこの段では、

00:15:19	資料上は手法だけになったんですが、はい。最終的にはそういったところ、
00:15:22	した上でし、
00:15:28	せず、
00:15:30	最終段階になる。
00:15:33	実際に設定されて、
00:15:36	環境、
00:15:38	今回、
00:15:40	ご説明したいこうあるべき減衰定数とそれに対して根拠としてされる、
00:15:45	内容が適切かという意味では、結果とのセットの説明。
00:15:54	いただければな。
00:15:57	を、
00:15:58	もう一つちょっと趣旨がわからなかったのは、これ基本、
00:16:02	許可の中の議論。
00:16:05	で今回設工認、
00:16:06	他サイトの施工になりますと、必ずしもこの数字になっていない。
00:16:13	今回大事だったら、30で、
00:16:17	1試験値の収束値を使ってるのかというような事例もあったか。
00:16:21	ちょっと柏崎の、
00:16:24	そこら辺を1本評価。
00:16:27	で、
00:16:28	それを今、設工認、
00:16:30	業種、
00:16:31	そのあたりもちょっと繋がらない気がして、
00:16:34	その辺、
00:16:35	考えて、
00:16:36	整理、
00:16:38	はい。日本原燃の岩瀬でございます。今回の許可のところというよう なところでちょっと話をしたところ今回整理重立ったところでやった というのが、まさしくその地震観測を用いた手法に基づく深掘りが我々、
00:16:51	今までお示ししたデータに加えて、
00:16:54	要は
00:16:55	というようなところも、前回の会合で欲しい。

00:16:58	はこちらから
00:16:59	内容、
00:17:00	それを踏まえて、じゃあ、
00:17:09	伝達関数を合わせて、
00:17:11	何ですかね地震後章とかそういうような、
00:17:15	いうのは、
00:17:16	地震動の作成の、
00:17:20	が多かったので、
00:17:25	設工認の方での各社にあり、
00:17:30	なんでしょうかね、ちょっと包含されるといいますかそういった
00:17:34	許可での、
00:17:41	そこが今、
00:17:42	荒れてるような、
00:17:46	ちょっとそこの各社で、
00:17:48	工認段階でどういうふうなことをやっていて、それよりもある程度、何 て言うんすかねかな。
00:17:55	実現象。
00:18:01	ほかになきゃ、十分ですというようなところの説明になるのかもしれない んですが、そういったところもちょっとわかりやすく、記載の方は さ、
00:18:08	日本原燃戻れます。衛藤。今ちょっと長瀬からも説明差し上げたところ でありますけれども、これ最初に木曾さんからおっしゃっていただい た、
00:18:18	目的に照らしてこのデータ取りでいいのかと言ったようなところをきち んと設定するというに尽きるのかなというふうには思います。です ので我々が取りたいもののターゲットを、
00:18:32	見たとき、その許可であろうが設工認であろうが、それが技術的にこう いう観点でちょっと参照して、
00:18:39	ちゃんと
00:18:46	ふうに思います
00:18:50	改めた値だったと思い
00:18:57	考えるメーカー。
00:18:58	ただし、

00:19:01	押して、
00:19:02	受けてるものは、
00:19:04	その説明を追加して、
00:19:10	絶対取れない。
00:19:14	それですね、今ご説明があった、
00:19:18	菅
00:19:19	もうまず上の文章に何歳と。
00:19:24	集めてみましたっていいながらですね。
00:19:27	今回その観測データの整理実績なんかを主体的に見るためにということ かもしれないんだけど、項番サイトでの限界の方が非常に、
00:19:37	当然ながらデラックスの内容ということが前面に出てきて、
00:19:41	なお、
00:19:43	そんなにあまり何かを意識した説明がされていないという印象があります。
00:19:48	で、阿藤そうですね先ほど言いましたように、今回は設工認での議論であって、許可の議論がそのまま使える使えるという、ご説明があったんですけどそのあたり、
00:19:59	今説明がある。
00:20:01	ありますのでそこを
00:20:03	必要。
00:20:08	南蛮サイトへの適用ですねあと施工による適用性といったことを踏まえて、睨んでこういった整理が有効なんだということです。
00:20:18	そういう趣旨で、
00:20:24	はい。日本原燃の長谷部さんはかしこまりました。実際の難関サイトのここ二つ決め打ちで見ているとかではなく、
00:20:30	いわゆる伝達関数を合わせるような方法以外のものをやっているサイトでどこがあるっていう観点でちょっと見まして、そちらの伊佐検査をやっているサイトでその二つが、
00:20:39	ある意味、何かの中でも、スペシャルというか、そういったようなところだと思いますのでこういうふうになりました。ただ当然見るサインが、
00:20:50	今日も
00:20:51	挙げましたが、
00:20:53	やるところも最終的な

00:20:56	ところも含めての話になると思いますので、何でこのサイト、
00:21:00	もう最初
00:21:03	日付を
00:21:08	このように記載のところは、
00:21:19	の見解は、基本的に解放基盤表面浅いんで、
00:21:24	すべて解放基盤表面以深について適用して欲しい。
00:21:29	通りは 2000 の設定にしようとか、地震、
00:21:34	を設定する。
00:21:35	書いてありますし、本間丹羽 2000 という言葉はないんですよ。下二つは医師にしよう。
00:21:43	これを見てとですね、解放基盤ショウリャクにより、浅いところ深いところへすぐ適用できる手法の範囲でもあるのかもしれない。
00:21:52	も思えるんですけど、それはやっぱり、
00:21:55	これらも、ここに紹介された手法に、
00:21:58	適用範囲があるのかどうか。
00:22:00	もしあるとしてそういったことを意識して今計画を立て、
00:22:04	こっち行っても、
00:22:06	はい、日本原燃の岩瀬ですまずすいませんこの 3 ページの表がですね非常に私が書くときに結構
00:22:12	統一感のない書き方になった。
00:22:17	各社、元
00:22:23	手法はどのサイトでも、いわゆるその地震計画をキャンチというところで、
00:22:29	のデータを、
00:22:30	やっているという、
00:22:34	項番サイト。
00:22:40	それは少なくとも、対応基盤より上か下かは置いて、
00:22:46	ところは、観測記録を用いた手法いざ検査のやつ。
00:23:00	利用範囲なのか、浅いところは大事だ件数は見れないのかとかっていうふうな話になりますと、必ずしもそうではないと考えてございます。
00:23:07	ですので考察には、
00:23:11	今回やろうと。
00:23:19	その辺のものはちゃんと、

00:23:30	出して
00:23:32	どこかというようなそういうような子、
00:23:36	ちょっとすいませんまだデータもない。
00:23:38	黒木だけでしゃべる。
00:23:40	そういったところは、環境管理に入れた上で、
00:23:48	実際、地震、
00:23:52	はい。すいません、私が余計な情報を入れたところがありました。はい。はい。
00:23:57	それは適用範囲がそこだけだという意図で書いたものではございません。はい、わかりました
00:24:04	皆さん規制庁の岸野です。3 ページまでの範囲で、私以上なんですけど、他の方この範囲
00:24:11	もし、
00:24:16	はい。
00:24:16	規制庁、間瀬です。
00:24:19	2 ページですね、まず
00:24:22	方針のところに、
00:24:24	議案については、
00:24:27	こういうの手法が高められてますよ。
00:24:31	で、
00:24:32	既往の審査実績としてはあまり今日手法についても、評価を行った上、
00:24:38	その設計の、としてはですね、基本的には時間の形成評価と同様に、
00:24:47	室内試験の時定数、減衰の考え方を、
00:24:52	採用していくというのは、
00:24:53	実績が、
00:24:55	ね。
00:24:56	今回、現実としてはそこで、
00:25:01	以前申請、
00:25:02	抽選の方言のを現地の考え方を通じ、
00:25:06	うん。
00:25:08	もう、
00:25:09	今回、その方針を変えようとされ、
00:25:17	従来通り、

00:25:19	最終的には、いろんなデータを拡充はするんですけども、最終的には、
00:25:24	詳しく試験中心とした減衰の設定方法、これは地盤の安定性評価に使ってますから、
00:25:30	それを中心に計上する。
00:25:34	或いは、いや、実は発見を柱にして、
00:25:39	或いは地震観測、違う。
00:25:41	設定方針としてそれが読めないんですよ。はい。はい。
00:25:46	日本原燃、能登でございます。今おっしゃっていただいている中でいうと、まだ後者の領域だと、いうふうには思っております、
00:25:57	我々が今までご説明の中では地震観測記録による方法を主軸において他のものをサブというようなご説明を差し上げて参りました。ですけども、今ですね我々、とにかく
00:26:09	減衰定数をですね設定するためにそれを支持するデータは全部ちゃんと室井の設定やということで、我々今考えておりますのはこの地震観測記録による方法これがであるというのは、
00:26:22	それはそれだと思んですけども、江崎参与の方の宇井等も上げてるんでこれで強力にやっぱりこれは、岩崎で3軸圧縮試験による方法による考察というのは、それを否定しないということを確認すると。
00:26:36	そういうような考え方でこの三つというのをまとめて参りたいというふうに考えてございます。
00:26:41	その他の手法につきましてもですね、これ笹木さんでやられているやり方というのは、これもちゃんと確認いたしまして、我々のやってる技術行数ですねこれを、
00:26:54	非するかどうかという意味でのものを、小関というのをしていきたいというところでございます。以上でございます。
00:27:01	はい。規制庁箱崎です。
00:27:04	今の大坂で、全く等が今後、現実としての設計をしていますということで出されてくるかというふうに思いますので、
00:27:14	この説明を、
00:27:17	同じ、2ページ、②のところですけども、STの増大化等を踏まえて、議決範囲、
00:27:29	これに関しては、法制に関して、



00:27:32	Ssのなったにかかわらず、支持岩盤、
00:27:37	非定型性の影響はないですか。
00:27:39	もうあまりないですというのが結論。
00:27:42	うん。
00:27:43	あえてこれ原水系、また取り上げおき、
00:27:47	理由ですね。
00:27:49	というのは、
00:27:50	合成も助成するなっても、
00:27:54	あまり
00:27:55	の進化がない。
00:27:58	なれば、減衰は逆にあまりひずみ依存の方で、
00:28:02	基準による減衰の増大効果が見られないということ。
00:28:07	で、内部減衰としては一つの利益件数があったんだと思いますけれども、
00:28:13	それを青山あまり見なれないという方向になると思うんで、
00:28:18	ここら辺剛性の話と下水の話が、
00:28:22	アンバランスに感じるんですけども、
00:28:25	②でどういうことを説明される。
00:28:29	ちょっとこの辺が、
00:28:32	日本原燃、加瀬今後ここで②のところを持ち出した理由というのは、今のところ、
00:28:39	日本の岩崎さんおっしゃった通りです。現実には藤谷さんとあともう1個内部減衰というのがあると、その内部減衰というのは、神経が進むとおっきくなってくる傾向かなという、そういうようなところになりますけれども、まず我々として観測記録とかに基づく、
00:28:54	分析も深掘りしていきます。その観測記録に基づく分析は、ご存知の通り、3番目の工場になると、
00:29:02	けども、そのときに、我々としてこういう観測記録の分析と、この
00:29:07	点検、谷川式のデータ分析でやっていくと、多分、内部牽制分割とは言わないけど、全体の分析の方もそれぐらいかな、大原則ません。
00:29:19	そういったようなところの分析をした上で、我々として、先ほど野元が申しあげましたような敷地として、徹底するような減衰定数等バーン厚

	板ところだと思んですけども、そういったところとの関係性を整理してあげる必要があると考えています。その時には、
00:29:34	やっぱりその内部減衰がどれぐらいかというのは、ここで出ている船級がそんなにしないという前提の上でのいわゆるそ、
00:29:43	履歴減衰もそこそこなそれっていうかね、ひずみがないときの減衰がほぼイコールおそらく内部減衰、
00:29:50	値だろうというふうに考えておりますので、そういったところを考察するよりは、やっぱり岩盤というのは新京成がそんなに、うちの伊勢里ないよねっていうところをきちんと前提を置いた上じゃないとその考察が始められませんので、ちょっとそのためにこういう知見として、まだ事実、
00:30:03	そして買っていていただいているというところでございます。ちょっと数字が出てない段階で何も言えないんですけども、ちょっとそういうアプローチでの考察はしようというふうに考えてございましてちょっとマイクとして、
00:30:13	出したい。
00:30:15	院長、浜崎です。
00:30:17	前売りとしてこういう記載をされたという、今の説明は理解しました。
00:30:22	今もその真下から話がありました。日比が小さいレベルでも、減衰のメカニズム、
00:30:30	難しい。
00:30:32	赤瀬。
00:30:35	内部材料減衰を、
00:30:37	3番減衰本当にかける。
00:30:40	それを定量的に評価できる。
00:30:43	で、この既設の審査できて基準における件数で、
00:30:50	いろいろ考え方が、
00:30:52	いう中で、
00:30:55	年齢としてですね、減衰のメカニズムをさっき言われたように、内部減衰、どのぐらい、3ヶ月の前という形で、
00:31:04	科学的に証明して、
00:31:06	これから進もうとされているのか、或いは設計的に考えるところですかというようなですね。

00:31:13	アプローチをさ、考えられてるのが、現時点でもし考えがあったら、
00:31:21	2番目でございます。明らかに、今おっしゃっているメカニズムに踏み込んで、これを分析していこうという考えは我々持っておりません。
00:31:32	設計と思っているときの考え方の土台として前提を整備したいとそれぐらいの意味合いでございます。
00:31:42	江藤ですので、ちょっとですねその非線形性をですねここを踏まえた、あと何かヒント加えるようなニュアンスでちょっとこれ受けとめられる表現じゃない。ちょっとそれはまずかろうと。はい。
00:31:55	自分は思いますのでちょっとそこは誤解のないように、ちょっと改めて参りたいというふうには思います。はい。以上でございます。
00:32:02	九州電力の明石でございますちょっと補足させていただきますと、後程後のページでの実際の実験の取り組みも出て参りますけども、
00:32:12	いわゆる内部減衰としての岩石コアの減衰の測定というのは九州電力でも行いました。その上で何をやったかということ実は、発想としては、内部減衰を測定した上であとは岩盤 PS 検層をやったときの、
00:32:27	張りぐらいたらつき等から散乱減衰をある程度推定して合わせ技で減衰でこんなものということが、推定できないかと。
00:32:38	いう子トライアルそういう知見もありますのでトライをしましたけどやはり、先ほど濱崎さんおっしゃった通り、そもそもその内部減衰と再現性きっちり分けて評価するという、あと、
00:32:49	別検査の暴れ具合からその散乱減衰を推定するというのでやっぱりなかなか難しいと。
00:32:55	いうところがありましたんで結果、定量的直し仕方ができるまで至らなかったという現実があります。しかしながら、こういう目付でそもそも減衰ってどうい
00:33:06	どういうふうに構成されてるのっていう見つけて整理をしていくと、この内部減衰のデータを取るだけでも、こことここは似通ってる共通するね、或いは、こことここは、どうも傾向が違うと。
00:33:19	いうことだったらそういう相対的な物語はできると思いますのでまあ、そういう見附例の整理名をする上で意味あることだとは、考えております。実際に玄海の中でもそういう相対的な目線、

00:33:33	その内部減衰として測定したものを相対的な使い方をしたりはいたしましたので、今後ちょっとそういう整理を行っていければというふうに考えております。
00:33:43	以上でございます。
00:33:46	もう、
00:33:49	高尾君に関して、
00:33:54	説明の、
00:33:56	思います。
00:33:59	規制庁浜崎です。
00:34:01	あとですね2ページの③の最新データの話。
00:34:06	うん観測記録、ボーリング調査と二つあって、地震観測記録ですけども、これ
00:34:12	前回の会合時の資料の中に、
00:34:17	中央、右端で採用した地震観測記録、
00:34:24	データはあります。
00:34:26	それで、先ほどの話ですけども、東西、
00:34:32	に関しては、移設前のデータはない。
00:34:38	あ、
00:34:40	本件は、
00:34:41	移設前のデータについては当然、移設前の質問のデータはございませんで、前回の審査会合でお示した先生の資料の最後、統制かけました現地調査という、
00:34:54	開けて、そういう現状、
00:34:56	しましたが、その際には、西側と東側については、結合の新しい
00:35:01	やっているというところ。
00:35:04	はい。はい。
00:35:05	写真を使っております。はい。
00:35:09	はい。
00:35:10	規制庁の幅野です。とすると、中央にターンしているが、
00:35:16	2点、例えば2012年でたとかないんで、
00:35:23	日本原燃の方が入ってございます。今回新しいデータを使ってデータを最新化してやり直すものというのは、ちょっと資料としては5ページのところになってしまう。そうですね。

00:35:35	はい。そのうちの、上から三つ目の週末、同型のやり方になります。前回の経営者会合
00:35:43	の周波数依存性なしの、我々今まで実は全くやったことなかったら、やったことないような検討だったので、すべてそれは中央西井がすべて新しい地震でやりました。
00:35:53	ですけれども、今回のこのやろうとしている集積等の形、斜めペーパーかかっている下水道に A 評価なんです、これは許可の際に、はぎとり地盤モデルでやったきりになるということになっておりまして、これの検討については、
00:36:07	西東につきましては、その古いものでやっていたものしかありませんので、現状境界を示した段階で、これはこういう検討せっかく今回新しくなるのであればデータを最新化した上でやり直そうと、そういうような意図で今回データの耐震化をやって、
00:36:23	規制庁、田崎です。
00:36:26	これが 11 番ですと 2001 年から 2003 年。
00:36:30	データを、
00:36:31	そうではないと。
00:36:33	人が入ったんですよ。
00:36:35	はい。こういったものを今回、当然追加するのか、要はデータを追加するっていうのは、何をもって追加不要か、古いデータも、或いは 3 歳、
00:36:46	最新の、
00:36:47	例えば今年と、
00:36:49	データに関しても、追加する、今、予定なのかそこら辺をちょっとお聞かせしたい、願いたいということ。というのは、これ、
00:37:00	前回のこの会合のときも、昨日ですと、
00:37:04	要は戸田 1 号で使ってる人が微妙に違いが出てるんで、違いはどのような理由があって、今後は、それは法律するのかしないのか、その点について、
00:37:16	はい、日本原燃の長谷です。前回の時からなんですけれども使っている地震はまず中央西平支店違うというのは、当然取れていては、地震観測記録というのは中央処理しまして、当然難波が違うということになります。我々今回同定かけると、

00:37:32	えらん地震後にはですね、各地震観測点で観測最大加速度を基準にとっ ていく。
00:37:39	いうことになってますので今多分浜崎さん見られているのは、我々の補 足説明資料の研修の資料。
00:37:46	整理表だと思われまじけれども、その下に中央と例えば東出は碓井って いう西出はマルついていないというものがございませけれども、これに ついては、同じ地震でも、中央と西はお金と荷重が届いていたけれども 東出は神原ぐらい重ねなかった、そういったような考え方で、
00:38:01	基準でラビングでつけてないんで、そういったような考え方でやってい る都合をちょっと、そうなんですかね三つで必ずしも使っているという ものではないというのが、排水の位置付けになっております。その辺は すいませんちょっと説明。
00:38:14	書き換えてないところもしかしたらあったかもしれませんので、改め て体制、
00:38:18	もう一つご質問いただいた新しい地震を足すのかどうかという、古井 2003年版というところの観点ではその2センチから2003年ぐらいとい うのは、そこも当然、前の検討では含めた上でのトップテンっていうと ころを選んで、
00:38:32	もうある意味、棄却済みということになっております。今回ですと、多 数のは、いわゆる2016年ぐらいに起きていただいた新しいようなもの が、何か大きく、
00:38:43	ありますので、そういったところにつきまして選んでいこうと。
00:38:46	で、それですでに選んだものが、前回あの説明資料でお出ししている 地震になっておりますので、ですのではぎとり地盤モデルも、そこにお 示した地震で今回何かをしますとそういうような意図で、はい。今は 考えております。
00:39:00	はい。規制庁、
00:39:03	ある程度今の説明、理解はできました。ちょっと資料を読んだと、
00:39:10	わからないので、ご説明ください。
00:39:16	はい、井関浜崎です。あと、ボーリング調査についてですけども、追加 で、これは椎名を使った、使用する、踏まえられて、

00:39:27	当然関野でございます。今のところ起震車カートバイブレーターをですね設置して、周波数コントロールで実施するという事を考えております。
00:39:37	北脇です。
00:39:40	あまり加須食うと実施経験がないんですけども、例えば工事中だけあったりとかですね、或いは議論、
00:39:51	農協さんとか、そういったものがあるんで、結構難しいかなと思ってます。したけども、
00:39:58	そういった OMEGA 的要因に関しては、クリアできる見込みがあるという
00:40:03	ふうに出して、
00:40:04	はい、当然設計のものでございます。日程をですね調整しまして稼働するような工事はなくすということで、調整をかけようと思っております。
00:40:15	はい。規制庁原口です。そういったノイズの影響、
00:40:20	は踏まえない形でということですね。
00:40:24	はい。
00:40:31	うん。
00:40:40	私から、5 ページの内容について、
00:40:45	いただきたい。
00:40:46	ます。
00:40:48	ですね左から 3、
00:40:51	検討手法という別の記載を見ますと、
00:40:55	結びはですね。
00:40:57	農家の検討だったり、確認。
00:41:01	おそらく一番上の 3 軸以外の項目っていうのは、限界。
00:41:07	Traits について、
00:41:09	検討であったり、確認であったり、
00:41:12	おそらく使い分けている。
00:41:15	思います。現在もう議論なんか見えますと、
00:41:18	おそらく検討とついているものは、それを根拠にして減衰定数を決める。
00:41:25	で、下の方に確認。

00:41:28	確認検討対応ということありますけども、確認からは、音、浅部では、
00:41:36	そういったものについて決めて、深部にそれを適用するチームに直接の根拠はないので、戦後のものを適用するにあたって、
00:41:45	その適用できるかどうかの判断根拠に使ったものが各
00:41:48	なのかなというふうに、
00:41:50	現在の審査ということ会社がしたんですが、まずその理解。
00:41:55	はい。日本原燃の松江さんの資料の作りの言葉の扱い方としてはまさしく今千野さんがおっしゃる通りの使い方ですってなった時にすいません私その表記をつけて書いたつもりが、
00:42:05	下から2番目の速度層断面による検討これ私の意図だと確認すべきかなという、
00:42:14	はい。
00:42:16	そういう位置付け。
00:42:20	基本的には、この検討とかそういう使い分けは大体限界スペースしてるんだけど、今回の最終の計画としても同じような位置付けとしてやっていくかと思う考えたという
00:42:32	はい。日本原燃の加瀬とおっしゃる通りでございます。
00:42:36	はい、長谷です。
00:42:38	一番上の35円。
00:42:41	評価とって、
00:42:44	これはちょっと位置付けがよくわからない。
00:42:47	検討でもなく確認でもない、これは
00:42:52	本件は使わないのかもしれない。福土さんの参考扱い。
00:42:56	さっきの大本さん、御説明ひよっとしたら、
00:42:59	言わせるようなご説明もあったので、ちょっと確認なんですけど、この3軸圧縮試験の位置付けってのは、
00:43:07	はい。日本原燃の大町でございます。まずここ30詳しくしても、
00:43:11	出した理由としてはやはり弱に書いてある所のすべてをちゃんと今回は説明としては全部網羅すべきだろうというところでもずこれを、何ていうか、改めて追加の計算とかデータ取りをしないから書かないという選択肢はないだろうと思ってちゃんとまず書いたという次第でございます。その上で、我々としてまだ説明がちょっと足りていないよなというところがやっぱりあるなと思う。



00:43:31	まして、それが先ほどもお話しました内部減衰としてのうちの敷地としての県水道としての内訳というんですかね、内部ケンセイ内訳みたいなところ、そういったところの考察にするものにもなりますし、
00:43:43	最終的には我々としての的を用いる減衰定数としては非線形性を見るか見ないかというところの判断も含めての、減衰定数の設定というところになると思いますので、
00:43:53	この方法ということが、この3軸圧縮試験による方法というのは、いわゆる弱に書かれているのが一般的標準的な手法だとしたら、それに則って作られているものであって、例えばそのひずみ依存曲線、
00:44:05	曲線総曲線みたいなものがきちんとデータの連続性とかを十分性とかを持ってきちんとそういうものとして出されているかとかそういったような観点での考察はやはりしないといけないなというふうに
00:44:15	考えて、今回はこの欄に書かせていただいた次第です。
00:44:19	規制庁はい。1年間大体そんなところを守り、
00:44:26	最終的な扱いもちろんデータの考察を行った上での判断かもしれないんですが、それによっては、その設定根拠になり得るっていう位置付けと理解しており、
00:44:39	はい。日本原燃野元ございます。そこは予断をもって、どうこうということではなくてやっぱりその出てきた結果をきちんと見てくることであるので、それは今の段階で、その根拠足りないっていう部分も選択肢ではないというふうに理解しておりますので、
00:44:54	今のご質問はイエスだというふうに思っております。
00:45:11	もし鹿銀さん、これ数、真ん中の列になりますけど、
00:45:16	3ポツに示した、
00:45:19	対応という。
00:45:20	記載です。
00:45:22	下の四つぐらい。
00:45:24	先ほど、
00:45:25	確認該当。
00:45:28	一部検討中の方に使っちゃって、確認該当する
00:45:32	ただ下の四つなんですけど、
00:45:34	こちらは、先ほど少し触れたようにですね、

00:45:38	直接減衰定数の根拠となるというよりは、他から引っ張ってきた場合の適用性だとかを確認するようなものって使うというような位置付けで書かれて、
00:45:49	上から二つ目さ検層。
00:45:51	についてはですね、そういった説明がないんですね。下の方には県政表層の評価による考察意外とってという説明は、
00:46:02	遊佐検層の方には特に入っていない。
00:46:05	もう、
00:46:06	玄関とか先行サイトを見ますと、ここも、
00:46:10	減衰定数の直接設定というよりは、当請願で、
00:46:19	値を新聞に適用できるかどうかの判断に、
00:46:23	上坂先生を使った選考され、
00:46:26	そのような書き方をしないということは、最初の場合は、いや、そうじゃなくてももうこれを設定根拠、一軸主軸というか、設定根拠の一つにするんだというふうな、その考え。
00:46:37	そしてここに記載されていると。
00:46:39	理解する。
00:46:40	はい。日本原燃土橋でございます。まず、事実関係といたしまして、当社の場合は
00:46:47	限界のところと違まして、解放基盤から基礎下レベルってところの岩盤ルール我々が評価した範囲につきましては、地震観測局による評価っていうところができると思ってますので、
00:46:59	玄海さんでやられてるように、それを下に延長させて、外挿という言い方がいいんですかね、させてやると考え方の確認、回答の考え方の確認としてのものという位置付けよりは、ちゃんと観測記録で評価した部分の裏付けをさらに高角度を高めるっていう位置付けになるというのが、
00:47:16	このS波件数の位置付けだと思っています。それをすいません、私としては根拠の一つとするというふうに言っても差し支えないというふうに思ってこのように検討というところでは、活動記録と同じ位置付けにしているというところでございます。ただ、
00:47:31	その時には軽重というのは同じ根拠の中でも、軽重というのは多少はやっぱりあると思いますそれは最初に申し上げた周波数のターゲットレン

	ジとかそういったところの位置付けも踏まえて、我々が観測記録から出したという、
00:47:43	減衰定数というのが、それを例えば伊佐検層から出てきた結果の周波数依存性なんかと見比べた上で、さっきの観測記録から出てきた減衰をどのぐらい支持する結果になっている。
00:47:54	そういうような考察になるのかなというふうに思っておりますので、そういった形状ありつつも、どちらも等しく根拠があるというふうに思っているという、そういうような意図で入っています。
00:48:04	はい、わかりました。そういう位置付けとしてとらえている。
00:48:07	それでは、
00:48:12	はい。具体的なその調査計画とか細かいことってのはまた別途、
00:48:22	あんまり値差ケースも、
00:48:24	一番右側、ここの検討内容。
00:48:28	へえ。
00:48:29	一つ目のポツと二つ目のポツ。
00:48:33	それによって、前回の会合での説明の方から考察。
00:48:40	同じように読めちゃう。
00:48:42	これ、前回と違うっていうのは、
00:48:46	新しい追加データやったり、
00:48:51	はい、そのつもりで入っております。前会議のご説明の際にも、そういった周波数特性なんかも踏まえた上での考察をご説明して、ただそのデータがちょっと確度を説明する上ではちょっと足りないんじゃないか。
00:49:04	そういうふうなことだと思っておりますので、何かしら新しい角度の、
00:49:08	ものが、
00:49:09	考察の観点で見られるかということそうではないかと思っておりますが、すいませんちょっとあの評価調査の仕様によっては例えば周波数レンジがちょっと変わったりとかみたいな話もあって、新しい考察ができるかもしれないというところもありますので、
00:49:21	決して何もかも可能性をオミットしてるわけじゃなくてそういったところも踏まえ、柔軟に必要な考察があれば、出していくのは、
00:49:29	気持ちとしては、
00:49:32	全部
00:49:34	支笏とりこつっていうのは既存の、

00:49:37	水は検層データに対しての説明で、今後、追加調査というのは3ポツ、
00:49:45	日本原燃のでございます。はい。文章交通量すいませんそういうふうな形でまして正しいから以降が今後やる。
00:49:52	要は部署、
00:50:02	話。
00:50:04	の書き方はそうですねここ抜けてないよう乗るあたかも何か引き込むのようになんてちょっと見てしまうというのでちょっと誤解を生じさせてしまったかなというふうには思いますが、
00:50:15	ちょっとその下の方、
00:50:18	ポツで、
00:50:20	正しいこれが足りないからこれやりますという構成の。
00:50:25	投票他の他でもやってる。
00:50:28	桐原。
00:50:34	今後やるものとし、
00:50:42	最後に1点だけです。
00:50:44	そのターンの、
00:50:47	今後の検討内容、一番下の行です。
00:50:49	データの取得を実施していく。これも、
00:50:52	何もし、
00:50:53	川崎香田。
00:50:57	日本原燃の岩瀬でございます。ここでは、岩石コアを使っての減衰量直接測定というものがございまして、その測定結果についてのデータを拡充していくと。
00:51:09	データの取得を実施していくと、そういう趣旨で、
00:51:13	日本語が足りてないからね。
00:51:20	激動の3、
00:51:21	ていう感じ。
00:51:25	はい、日本原燃大町です。それにつきましては新しくサンプルをとるという
00:51:29	そしてまた前沢検層、
00:51:31	小野寺本を新しく
00:51:34	というのは、既存の港でのコアというのを地質で見るものは、確かにあのうちの敷地で保管してるんですが、何かやっぱり検層検層じゃねえや

	そのコア試験をやる上での必要な加工っていうのがされていないものですのでそれやっぱり新しく
00:51:48	しかない。
00:51:52	わかります。
00:51:54	課長。
00:51:58	これも今後別途、
00:52:02	される。
00:52:04	追加調査計画なり詳細が説明される。
00:52:08	－原燃の間瀬
00:52:09	の江沢検層による。
00:52:11	調査計画みたいなところを今後説明しますが、それに、
00:52:18	どれぐらいやるかとかそういったところも含めて一応説明を考え、
00:52:32	はい。規制庁幅野です。同じ5ページの表で、2週間分による方。
00:52:39	けれども上、
00:52:40	いろいろあります。
00:52:41	これに関しては玄海34に、検討ということで、原価34の資料を見ると、
00:52:50	例えば一番上の伝達関数4月以上にQ値として、8.7。
00:52:57	それから、次の表3.7、D。
00:53:00	新伴正明発展という朝比奈、さらに電源も、
00:53:06	みんなが出てくるというふうに理解してますんで、ただ、これ
00:53:11	現在、今あった、
00:53:15	けども、結局協会としては92件。
00:53:19	はい。
00:53:21	これはどういう理由で、
00:53:23	順次、
00:53:26	はい。九州電力の明石でございます。今浜崎さんがおっしゃられた通り三菱法で8.73、78.6と出てきたQ値を元に設定するQ値をどうするかということについて、
00:53:38	これ、要は、過小評価にならないように保守性を持って設定するというので、Q値の値としては一番大きいのが8.7なのでそれを超える値として例えば9、

00:53:50	とか 10 とかいう、減衰 Q 値の設定の仕方余ったと思うんですけども、もう一つパーセントとしての 9、減衰を考えたときに、
00:54:02	要は 4%だと 12.5 で 5%だと、何とかな、
00:54:12	10 ですかね。
00:54:14	で、18.7 に対して 98.7 足して 10 だと、ちょっと余裕としてどうかなというところもあったので、4%というきりのいい数字を目標に、その裏側市で 12.5、
00:54:27	という Q 値の設定をしたというものでございます。
00:54:31	はい。
00:54:33	同じ
00:54:34	ようにですね、今後伝達関数による、
00:54:38	或いはを通して、
00:54:40	というプロセスを全面
00:54:43	です。
00:54:43	してるということ。
00:54:44	けども、今 9 電の方でやられたような、そういった流れで、
00:54:51	90 ページ。
00:54:52	はい。日本原燃
00:54:53	TRACE と言ってしまうとあれですけどそういった流れで入ることで考えてございます。
00:54:59	はい、規制庁。
00:55:03	あとその一方、その他のところという岩石試験というごめんなさい。違う。
00:55:09	上田ボーリング孔からの玄関岡というのが出て、
00:55:14	で、
00:55:14	これに関しては、
00:55:18	当直接設計用というか、許可時の地盤モデルとしては採用されていないんですけども、やはり 12 年後という Q 値を設定する上で、
00:55:28	去年としては、考慮したということでよろしい。
00:55:32	はい九州電力の明石でございます。まず九州電力の方での使い方として当初の目的としては、江崎層、
00:55:42	あくまで叩き高周波の値ですので、絶対値としてすそのまんま根拠として使うのはなかなか難しかろうということで、

00:55:52	上と下、特に地震計のない深いところも、木内減衰の値としてはそんなに、そんなに変わらないということを相対的に確認する目的で実施。
00:56:03	いたしました、が結果論なんですけども、この江崎検層でデータをとってみると、絶対値としても絶対値の数字として見てもそんなにおかしくない。
00:56:14	それから見ても保守的な数字が12点を設定できてるよねという結果がありました。で、実際に高周波とは言いながらちょっと周波数帯域10Hzまでですけども、取れてますので、周波数の帯域でこう見るとそんなに、
00:56:28	勾配出てない。だから、もっと長周期体まで、要は一般、我々がターゲットとしている周期体までその絶対値を用いてもおかしくなろうと。
00:56:38	いう結果はえられましたので結果、資料の方にはなお書きですけども絶対値としても、我々が設定したQ値を下回っているということは書いております。なので、
00:56:50	あと、今後原燃での取り組みにおいてもその出てきた結果を十分吟味する必要はあると思いますけども、絶対値としても十分参照する。
00:57:00	結果はえられるだろうというふうに考えます。以上です。
00:57:04	はい。
00:57:07	多分、今の教諭拠出電力の決定。
00:57:12	でも、
00:57:22	あとちなみに今回、秋吉浜崎です。5ページ、ボーリング孔の追加のところ、今お話した、最初新城数としては、20増える。
00:57:36	今予定されている、登壇設計のフローですが、等級年30Hzぐらいまで可能ですので、うちの方がもう少し地盤がやら会のマージ減るII
00:57:49	そこそこの
00:57:51	始発になるんじゃないかというふうに思っております。
00:57:55	前回の会合資料でも、確かにIT企業でしたら、西でしたっけ。
00:57:59	1ヶ所10Hz。
00:58:01	はい。はい、美馬てるところ。
00:58:04	あそこで、
00:58:06	限界値よ。要は、やはり建物或いは機器への設計技術、小さい数字の方は重きを置かれるということもあるんですね。
00:58:16	そこら辺の

00:58:19	決め方といたしますか、頑張ったさも含めてです。
00:58:22	江藤。説明をして、
00:58:26	はい。日本原燃松江さんのかしこまりました。実際その辺でこの揺らした波の比率だけではなくて、入ってきた波の率の書き方とかそれによってもデータの信頼区間みたいなものがありますのでその辺の考え方とあわせてご説明すればいいのか。
00:58:39	考えますので、はい。
00:58:42	はい。
00:58:44	から以上になります。
00:58:50	現状は確認がございませう。
00:58:55	規制庁浜崎です。他になければですね、
00:58:59	スケジュールで、先ほど伴お話しが出たんですけども、
00:59:03	追加、
00:59:05	溶炉データの追加分析に関しては、7月エンド資料提出というかなっていうふうに、
00:59:12	これは、
00:59:14	この範囲での製造のものが、今月末に今、
00:59:22	日本原燃の方ですよ、まだ明確なビジョンがあるわけではないという、
00:59:28	遠慮し資料として、
00:59:31	今のところはやはりボーリング、今回やっていく上でも、その数量をずる配置、
00:59:36	と、あとはその中の仕様ですね、つまり僕らはその岩盤をターゲットにして、例えば解放基盤までは絶対取りますとか、その中でコアを先ほどの不破支店、
00:59:46	そういったところの使用について、網羅的にわかるように書いてあります都丸とは考えてございませう。
00:59:51	規制庁、高杉青井、今、あのおばあさんの説明は、調査データの追加追加に関しまして、私が聞いたのは、基本データの追加分析、これは全部、どっちかあごめんなさい。
01:00:11	記録をベースに、
01:00:13	見直す。
01:00:15	はい。



01:00:16	実業水がかかる検討、今説明したこの5ページ、5ページの答えを出さ んです。
01:00:23	日本原燃忘れて申し訳ありません。勘違いしました。こちらにつきましては はまさしく、今5ページにお示ししていたメニューに対しての解析結 果を出すものでございますけれども、可能であれば、すべて出せばな というふうに考えているところです。で、一部ちょっとすいません初チ ャレンジになっているところの地震は干渉法によるものというところ も、
01:00:42	かな、結果がすべて出るかというところがちょっとここだけはすいませ んちょっとあやしいところもございますので、それちょっと進捗を見つ つの例えば中を1回見た上で、その下のところにつきましてこれぐら いの見込みがありそうだとそれぐらいの、
01:00:56	ページになるかもしれないんですが何かしら全部に合わせるような形で お示しできるように判断、準備は進んでない。
01:01:03	要望であって決まったような答えになります。申し訳ないんですけど も、基本エストニアところが掘る掘って後にはならないもの以外につ いては、7月遠藤の4月31日を今
01:01:18	神尾木野江藤大関になってますけども、そこにすべてその検討結果をお 出しするという予定で、我々が進めさせていただきたいと思いま すので、
01:01:30	厳しくなったというふうに思っております。
01:01:34	はい。
01:01:35	規制庁浜崎。
01:01:39	27の方の進め方の資料ですと、材料試験は追加。
01:01:46	県と、はい。はい。
01:01:49	はい。で、
01:01:50	地域検討。
01:01:54	内容、これは一緒にずっとはい。
01:01:59	分析手段を、地震に関しては、ことで、
01:02:00	はい。
01:02:04	検討結果が出るわけではない。
01:02:07	その結果をいたします。
01:02:09	結構、結構あります。

01:02:11	はい。
01:02:12	来てた方がいいんです。わかりました。7月に、検討結果が出るということですが、
01:02:19	我々、
01:02:20	決して
01:02:22	急いでいるわけではない。はい。要は、今までも、はい。
01:02:26	出してしまってしまったみたいなきこともあったと思います。はい。
01:02:31	それぐらい模擬した上で、
01:02:36	の辨野福留ますはい、承知いたしました。
01:02:41	はい。
01:02:42	しちゃう。
01:02:47	規制庁上出ですけど、今の関連で確認ですけど、6ページの二つ目の矢羽根の、
01:02:55	矢印にある7月Eというものと、
01:02:59	二つ目の矢羽根にある7月中であるものはこれ、時期は同じなんですか。違うんですか。衛藤。
01:03:11	いうふうに申し上げたのは伊佐検層以外の、
01:03:15	お出しする時期の話。
01:03:18	で、今6ページで今おっしゃっていただいた、最後の7月中ん中で書いてありますけどもこれについてはこれはS検層による、
01:03:28	方法をとるときの追加のボーリングの使用数量等の計画の御説明間、これも仲田さん通じて、こちらはばっかです。
01:03:39	各課にご提出して、今、ヒアリングを1月のと仮置で、20何せ申しますういただいでる状態でございます。
01:03:51	以上でございます。
01:03:54	規制庁神です。そうすると私の質問に対しては、同じ日ですかっていうと、別々の日付のことをイメージして書いてるっていうことですね
01:04:04	表現。
01:04:06	ございます。
01:04:09	はい。規制庁深見です。あとどんな資料が出てくるか、今日は触りなので、
01:04:19	6枚ものの資料でしたけど、基本的には補足説明の形で欲しいと思ってるんです。

01:04:27	一つ目の矢羽根に関しては、以前1度会合にも載せてますけど、補足説明の形で7月エンド、
01:04:38	ということで出て、
01:04:42	日本原燃野本でございます。以前は会合で積ませていただいたような披露のスタイルを考えておりました、
01:04:52	のスタイルがで、
01:04:55	非常に今後反映するという川満。
01:04:58	さしていただいて、
01:05:00	ちょっとそういうスタイルを考えておりました。以上でございます。
01:05:05	すいません規制庁です。
01:05:07	赤嶺さん意味わかっておれおれがわかんないんだけど、
01:05:11	B、
01:05:13	あ、すみません、古作ですけど、あれ、
01:05:16	補足説明資料の形に見直すと言っていたやつを、
01:05:22	実行しないまま、
01:05:25	バージョンを上げるっていうことを言われたのか、見直した上で、
01:05:30	綺麗なものにして出すということなのかどっち。
01:05:34	今のご質問については、私は前者だと思っていて、なぜならば、パソコ説明資料に入れるときには、既存補足説明資料の表立てのどこに入れるといったような、
01:05:48	ちょっとそういうふうな今までの記載との西方も考えつつちょっと記載をまた調整させていただかんといかんかなというふうに思っていて私はそう思っていたんですけど、補足です。だからこそ、それはいつなんだとっていて、まだやらねえのかよと思ってる。
01:06:06	おっしゃる通り、
01:06:08	はい。
01:06:08	日本原燃の古藤でございます。
01:06:14	次回、審査会合までにちゃんとキャッチアップできるように、極計画的にできるように、やっていきたいと思います。以上でございます。
01:06:26	はい、古作ですよろしくお願ひしますっていうのも、
01:06:31	開校資料についたものって、非常に書き方が薄くて、とてもじゃないけど審査資料にならないと。
01:06:40	いうレベルだと思っまして、

01:06:43	何でそうなってるかっていうと、暫定的に仕事してるからじゃないの 思っているんです。
01:06:49	なので、
01:06:51	当初から言ってますけど、ちゃんと審査資料に足る情報ってどんなもの かっていうのを、認識して資料作って欲しいと。
01:07:01	ということです。延々とこれが足りないで足りないと言いつけてるので、 もうそんなのやめましょうよと。そのための決定、Steering チームでし よと。
01:07:11	ということだと。
01:07:13	思ってるので、よろしくお願いします上出さん。
01:07:18	追加つって、
01:07:22	はい。規制庁神です。終わりっていうと、
01:07:27	今、会合までにと言われましたけど来週も多分その前回審査会合みたい な途中段階の、即入れるための資料みたいなもので出てきちゃうとは思 ういますけど、そのヒアリングの時には
01:07:44	どういう形でちゃんとした補足説明としてある。
01:07:49	ということは説明に計量には、頭の整理をしておいてくださいというこ となんです。
01:07:55	大丈夫ですか。
01:08:01	違ってと。
01:08:03	時価のヒアリングの時に、そういう形の今後、
01:08:08	構成その後も、
01:08:14	その新3階、すいません、衛藤補佐。
01:08:18	八尋。
01:08:19	仕上がりとしての、
01:08:22	をちゃんと記載が、たるものに、できるだけなるように仕上げて参りた いと思います。以上でございます。
01:08:30	はい。規制庁神谷です。それで、あともう一つは二つ、6 ページの二つ 目の矢羽根の資料の形が、またイメージできなくなっていて、
01:08:41	一つ目の矢羽根は一応介護についたレベルの資料でと言いつつですね、 二つ目の矢羽根後、どんなものが出てくるのか想像がつかないんですけ ど、説明、イメージ説明できますか。
01:09:01	広井。

01:09:03	な計画を、
01:09:06	ご確認いただくといいですかすみません。はい、古作です。
01:09:13	挟んでいますけど、
01:09:17	計画の時、先ほどの資料でも使用についてということでしたけど仕様と結果を示すのじゃなくて、なぜそう考えているのかっていう考え方をまずちゃんと述べてもらわなきゃいけないと。
01:09:31	ということなので、そういったところをしっかりと論理立てて、お話をさせていただきたいと思っているんですけど、大丈夫ですか。はい。日本橋で他の資料は先ほど私が間違っちゃったらいいよ。
01:09:45	ですが、そこには、なぜこの位置にしたのかどこが足りないと思ったからここを選んだのかみたいなのは当然
01:09:52	そういう意味でのようにしようって言葉にまとまっちゃったんですが、そういう趣旨で書こうとは思う。
01:09:59	日本原燃、
01:10:01	瀬尾。
01:10:02	御説明資料ファイルの中にちょっと入れ込めるかどうかは最終的にはもちろん、ちゃんとフルセットできること。
01:10:16	最後には
01:10:19	規制庁古作です。
01:10:21	補足説明資料のスタイルこれまでのものをしっかり頭再構築し、内容を拡充して出していただくということでまた進め方のヒアリングの時にでも、
01:10:35	どういう進みになるかとかっていうのは話ができたらと思うんですけど、少なくとも現状その資料を出すつもりだったのが7月エンド、
01:10:46	ていう古藤なので、
01:10:48	今のその計画を示しますっていうのはそれより前ですから、まずは
01:10:56	何を考えてるのかっていうこと。
01:10:59	一旦説明いただいて、その上で他の部分の体系が作られたところに入れ込んでいくと。
01:11:06	いうことの順番にはなるとは思いますが、そういう形で進めていいんじゃないかなと。
01:11:16	ちょっとその内容として意味が、
01:11:20	てるのは、

01:11:23	ヒアリングの調整でご連絡いただいているものでは、追加データの取得計画ポツ、
01:11:31	基本地盤モデルと新生地盤モデルの差の整理分析と、
01:11:38	入れられてるんですけど、
01:11:40	今言った後段部分って話が違う。
01:11:43	もののような気がするんですけど。
01:11:46	なんでそれがもう入ってきている。
01:11:50	そうですね。日本原燃の
01:11:54	高祖南部
01:11:55	おっしゃっているのは
01:11:57	4月6月27日の進め方の時にできたときの一番最後のところで書いていた、今後設計での
01:12:07	部会の
01:12:11	申し上げていたと。
01:12:15	お話いただいたのに対応したものでございまして、考え方をですね
01:12:21	もちろん出てこないと結果っていうのは、あれなんですけれども、どこ の例えばアウトプットで、どういう指標で比較して、衛藤さんだろう
01:12:33	設計、設計用の
01:12:37	地震力として、どちら使うというふうに発生していくのかという考え方の、 三木杉の話は少しずつ始めさせていただくのかなとっていて、
01:12:49	表記できるですとはいえ、今日の今日の前半の面談の話も踏まえると、 やはり物がないと、言われへんといったところもあるので、
01:13:01	ちょっと出っこみ引っ込みあって出っ込みのところはやはりやり直しが、 の間もあるのかなという理解もありますし、長周期は何とか議論説明がつけばと。
01:13:12	いたところもありますので、やはりその架空の線で話してもあまり意味、 意味がないなというのをちょっと今日の
01:13:18	午前中前はなぜ思って参りましたので、これをちょっと今、
01:13:23	キンキンにやるべきかというやはり、ステップを踏んでやった方がいいかな というふうにはちょっと考えが、松葉で書いた時からちょっとへ変わって きておりますけどそのように考えておりますので、ちょっとこの辺、

01:13:37	進め方について、もう一度、今週末にもう一度ご説明させていただきたいと思います。
01:13:42	はい。規制庁の古作です。わかりました。いずれにしてもあれですね、これ
01:13:48	併記されてましたけど、別のものっていうことで、
01:13:53	あって、後半のものは、
01:13:56	また検討し直すと、いうことで理解をしました。
01:14:02	はい。
01:14:03	亀田さんすいませんどうぞ。
01:14:06	規制庁深見です私からも以上です。大丈夫。
01:14:14	要望して、
01:14:17	季節外れ一見だけちょっとわかんない。戻って申し訳ないんですが、ページの
01:14:22	原発関数をとってっていう、
01:14:27	対象だということ、
01:14:29	はい人間のそのように、
01:14:32	前回の水平だけを対比しておりましたけど、鉛直も入った上で、続きますので、
01:14:38	その結果を踏まえて、
00:00:01	録音開始しました。
00:00:05	それでは最後、
00:00:07	日本原燃の方から、
00:00:13	ございます。2人でございます。
00:00:15	他サイトの審査実績、
00:00:19	ではこれ自然実績に基づいた施工ですが、これ現在の検討のですね目的に照らして、これ岩波作っておりますけどもこれらの感じで整理を行うということ、
00:00:31	許可、
00:00:33	今30秒だって再なりますけども設工認における検討内容も踏まえて、この設置と、それから表だけでなく設定値に、実際にベースとしての設定値。
00:00:45	をどのようにされているかということ参照しながら、それから港湾サイドにおける手法の検討を採用してるわけですけども、その内容につい

	での取り扱いと適用性こういうような内容も作業しながら、整理を目的に照らして、
00:01:03	2 番目、検討結果を
00:01:06	どのような公共団体での確認を行うことで最終的な下水道させて行うかの効率について明確に留意した施設を行うこと。
00:01:17	ということでございます。3 番目に線観測記録を用いた検討における観測記録の設定の考え方を大手に説明すること。
00:01:24	4 番で江崎さんのターゲットを通しております。周波数体と建物構築物や機器の固有周期体の確認について、考察をまとめて、観測記録に基づく検討結果との関係性というのを、
00:01:37	これはベースは、
00:01:38	わかりません。
00:01:39	5 番目、3.3、追加調査に関する計画につきましては、広い数量と、をお示しするわけですけれども、それ、そのアイテムだけでなく、
00:01:53	それがなぜ、門田片岡ということで限定において、不足している部分を明確にした上でどのようなデータ拡充することをしたかと、いう考え方のフロー
00:02:06	で、6 番目補足説明資料への
00:02:10	では、
00:02:12	対応を行います。議会の報告を進めたヒアリングにおきまして、スケジュール、今後の見通しというのは、また、ご提示して参りますということでございます。
00:02:23	はい。以上でございます。
00:02:25	規制庁古作ですけど、5 番の考え方のプロセスは、
00:02:31	プロセスは余計考え、考えない。
00:02:54	あ、規制庁は
00:02:55	もう
00:02:57	減衰定数の設定方針について、何を柱に考えて通り、
00:03:02	そういう、
00:03:05	日本原燃の方はぜひそれは 5 番、何を根拠として、
00:03:15	2 番。すいません。はい。検討結果各種の検討結果があつてそれに対してどういう確認を行うことでっていうところに対する気持ちは、
00:03:25	求めないと。



00:03:31	変形方針を変えたのかというのもあるから、
00:03:35	原三野。
00:03:37	表層の設定方針をまず明確にすること。
00:03:44	井関支店、
00:03:46	30 場所、
00:03:47	減衰の設定方針っていうのが、まず、
00:03:51	施設が悪いんですけどここでプロセスについて明確にする場合のプロセスっていうのは設定方針なんですか。はい。こう言ってる。はい。はい。
00:04:00	はい。
00:04:03	細田。
00:04:05	違いますと思う。
00:04:14	そうそう、下水最終的な限らない。
00:04:17	減衰定数の設定方針について、
00:04:19	明確にすること。
00:04:23	検討結果は、
00:04:29	規制庁の長谷川ですけども、多分、
00:04:33	二つあるんだよね。
00:04:35	大きな方針っていう、これはちゃんと言わないといけませんが、これまでデータに基づいてきちんとやってこなかったっていうやつが、
00:04:47	ちょっとあるんだよね。
00:04:49	で、それがモック数で、それを採用したんだよね。
00:04:56	要するに、時間がないからとかそういう時間をね、焦ったりして、
00:05:03	何ていうか最小値を、
00:05:05	使ってきましたっていうのがただ MOX はそこで MOX と今回再処理は違うんですけど、いう方針そのもの、やっぱここはだから 1 回ごめんなさいとかやっぱ、
00:05:17	心を改めましたっていう世界の、
00:05:20	その方針があるんじゃないの。
00:05:24	まずはね。
00:05:25	そして 3 と、そう。
00:05:27	様々なデータをちゃんととって、その中で何て言うか、これがね、科学的技術的根拠に基づいた、

00:05:37	設定を持って再処理にはそれを適用していきますという、そういう話が、大きな方針としてまずある。
00:05:47	ね。
00:05:50	では科学的技術的っていうのは、どういうふうにしてこうやるんですかって言う、次の方針っていうのが、
00:06:01	あるんじゃないでその方針っていうのがちょっとプロセスっぽくはなって、多分それが、
00:06:10	後は抜い抜いた結果の室内の土質試験から求めたもの。
00:06:17	それから今回は1冊でやりますとか、
00:06:21	観測記録を使うんですとか、それから各種の文献で何かからってそういうのを総合してやる、やりますと。
00:06:31	というのが多分更新なんだよね。そうするとそいつらが各々どういう、
00:06:37	物理的な意味を、
00:06:40	出てくる減衰がそれぞれで違ったデータから出てくるわけだよね。
00:06:46	その分、物理的意味を、
00:06:49	を踏まえて、どの辺りで、
00:06:52	決定していくかっていうのはそういうことなんじゃないかな。
00:06:57	で、その中でS波っていうのは、多分、
00:07:01	室内試験、
00:07:03	等、
00:07:04	小さな地震観測記録の
00:07:08	中間ぐらいのひずみレベルって言った方がいいのかな、そんなにひずんでないと思うんだけど、
00:07:16	っていうのは、だから大記録は地震の大記録っていうのは、さらにまたね、こうあるんだけど、多分、
00:07:25	その間ぐらいに入ってくるっていうことなんでしょうか。
00:07:30	そういうのを踏まえて、
00:07:33	総合的に判断してっていうそういう意味合いが多分二つあるんじゃない。
00:07:40	そうですね。出た他のという話を複数は全部そのあたり説明したっけ。ちょっと。
00:07:47	覚えがないけど。
00:07:50	とと思います。

00:07:53	いや、今一生懸命限ってはいるけど、前半はもうそもそもそういうことになってたでしょっていう再確認が滝井。
00:08:03	今回のヒアリングでの資料の対応からしたらそのあとといいます。上川から総合的に行ってるやつを、
00:08:12	それで言葉丸めちゃうと、実際にどうやるかがわからないから、
00:08:17	それぞれの検討っていうのがどこをどういうふうに生かしていくのかと。
00:08:22	いう考えをしっかりと整理をしていくことっていうこと。
00:08:29	人見の手法これそれぞれについて、蘭世、物理的な減衰の勤務元をそれぞれ明確にして、今後設計に用いる下水道の設定方法を明確にする。なんかそんな感じです。
00:08:44	それぞれが必要。はい。
00:08:48	そうですね規制庁ですけどもまあさ、最初に言って、これ、従来からやった事例がやってる中で、従来お手上げとか、資材試験のDたを最終的には設計で用いてきた。
00:09:02	それに対して、元は、それも参考にはするけれども、より差があって、
00:09:08	とかであったり、地震観測に重きを置いて設計を地震力というものを策定するという方針を、
00:09:18	そこの、
00:09:20	明確にした上で、設定に用いる梅津上席。
00:09:29	はい。はい。
00:09:45	施設。
00:09:47	溶け込んでるのかもしれないんですけどちょっと5ページでいろいろと確認させていただいて、牧西条。
00:09:55	明確にしていきたいと。
00:09:58	例えば一番、
00:10:00	検討内容、
00:10:02	件数、
00:10:07	一番下のバックアップデータの取得を実施。
00:10:10	今は何を指して、この後のその検討内容についてやる内容っていうのを、
00:10:17	明確
00:10:18	記載の適正化をしてくださいと。

00:10:23	かしこまりました。認識はしております。
00:11:16	それぞれやっていく。
00:11:18	入ってきているされるようにする。
00:11:27	内容を撮影して、
00:11:28	実績を説明したいと思います。
00:11:31	浅井とご説明したように、
00:11:38	どうも中小、いくつか本来は、火災、
00:11:42	ますから、ないんだよね。ですね、社内検討するときに、
00:11:53	それに、石上ほかでこういうことをやっていこうでね。そうですね。もうこれが1件なっちゃってる。
00:12:02	最初にそういう整理をしてね。
00:12:07	一番最初の回答で大分カード出してしまったから、やっぱここをちゃんと見たのかということに関しては、こういうアプローチだったらわかる結果の形があったんですよ、多分これ、QAとしてはあります。
00:12:19	質問に対しての答えにはなってるかもしれん
00:12:25	なんだよ。
00:12:26	動くのは多分、あれかな。
00:12:29	そこで、
00:12:37	すいません。すいません。
00:12:42	結果が説明が生まれるということをつぎさせていただいたその使う場面地震としまして同じ説明の今後の検討内容が混在していて、
00:12:54	自殺が悪いというところを安定することと、というような形で今切らせていただきました。
00:13:01	はい。
00:13:07	秋葉につけませんが、現状は、
00:13:11	他ございますでしょうか。
00:13:17	付けば、
00:13:19	間宮相田をさせていただきます。お疲れ様でした。